

令和4年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 国文学科・助手

申請者氏名 福尾 晴香

研究課題		戦後現代詩におけるインターテクスチュアリティと翻訳に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、戦後現代詩におけるインターテクスチュアリティと翻訳の問題に関して、詩と散文の境界を超えて独自の表現領域を切り拓いてきた詩人の伊藤比呂美に着目し、ジャンル混交の問題とそこから浮かび上がる古典文学と現代文学の関係性について明らかにすることを目的とする。とくに、80年代以降のメディア環境を分析することによって、ジャンル越境的なテキストがどのように成立したのか、また、他の多くの表現者といかに拮抗し、新しい表現が目指されたのかを具体的なテキストに即しながら分析をする。こうした時代的文脈の調査とテキストの精読を通して、20世紀終盤から世紀の変わり目にかけて、日本の文学表現がたどった歴史的な転換点を明らかにする。
	研究の結果	本年度は、メディア環境の分析を進めるために、雑誌『鳩よ!』（マガジンハウス）や『ラ・メール』（思潮社）といった大手出版社が刊行した雑誌の調査を進めた。また、インターテクスチュアリティの具体的実践の調査として、伊藤比呂美の詩「カノコ殺し」（1984年、雑誌『ユリイカ』発表）を分析し、この詩が様々な暴力に曝される母体、女性身体を描くことで、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツや80年代フェミニズムにおいて重要な役割を果たしていることを明らかにし、口頭発表「女性身体を奪い返す——1980年代日本と詩人伊藤比呂美の挑戦」（日本大学文理学部第1回次世代研究者ワークショップ、「人文学の境界を問う 身体・言語・テクノロジー」、2023年1月16日、日本大学文理学部ラーニングコモンズ）としてまとめた。
	研究の考察・反省	上記の研究成果の他にも、本年度は現代詩人である小池昌代のエッセイ「蟬と日本語」に関する授業実践報告、また伊藤比呂美の詩「カノコ殺し」についての論文を投稿したが、掲載には至らなかったため次年度に再投稿し掲載を目指す。また、詩誌に関する調査結果についても、次年度に口頭にて発表する。これらの研究成果を発表するとともに、現代詩とインターテクスチュアリティの問題について、伊藤比呂美の『切腹考』（2017年、文藝春秋）というジャンル越境的なテキストに関する論文も発表したいと考えている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	日本大学文理学部第1回次世代研究者ワークショップ「人文学の境界を問う 身体・言語・テクノロジー」 「女性身体を奪い返す——1980年代日本と詩人伊藤比呂美の挑戦」 2023年1月16日、日本大学文理学部ラーニングコモンズ	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		